

今月のテーマは『乳歯と永久歯』です。

からだの成長にあわせて、あごも成長して大きくなります。そして、あごの成長にあわせて、こどもの歯「乳歯」から、おとなの歯「永久歯」へと生えかわっていきます。永久歯が生えそろうと、噛む力が強くなり、いろいろな食べ物をじょうずに食べられるようになります。

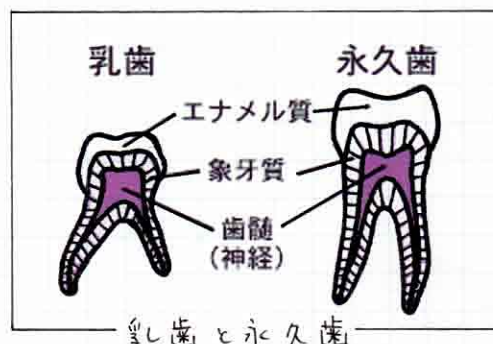
永久歯は一生使うとても大切な歯です。

今回は乳歯と永久歯の違いやしぐみ、役割をお話します。

乳歯と永久歯の違い

・乳歯と永久歯には色や大きさ、歯質など違いがあるって知っていましたか？

- 色:乳歯は白に近く、永久歯は黄色味を帯びています。
- 大きさ:乳歯の方が全般に永久歯よりひとまわり小さい。
- 歯質:エナメル質、象牙質ともに乳歯の方が薄いため、乳歯のむし歯は早く進行します。



生えかわりのしくみとその時期

・人間の歯は、乳歯から永久歯へ1回だけ生え変わります。

乳歯は2~3歳ごろに生えそろうますが、あごの骨はその後も成長を続けるため、歯とあごの大きさが次第にアンバランスになります。乳歯の根のまわりに組織を破壊する細胞があらわれると、乳歯の根はしだいに溶かされ吸収し、短くなります。

永久歯が十分に大きくなると、乳歯は自然に抜けて、12歳くらいまでには乳歯が生えかわり、28本の永久歯が生えそろうます。



犬歯と臼歯の役割は？

■犬歯とは？

上あごおよび下あごの真ん中から3番目の永久歯。上下に4本あります。

食べ物を食いちぎる働きがあります。

■臼歯とは？

犬歯の奥に位置する歯。食べ物を臼のようにすりつぶす。乳歯では上下左右に各々2本ずつある。永久歯では小臼歯、大臼歯が上下左右に各々2本ずつ、合計16本(親知らずを入れると20本)あります。